

第12回日本ウズベキスタン経済合同会議

はじめに

2015年1月27日、如水会館にて、「第12回日本ウズベキスタン経済合同会議」が開催されました（事務局はロシアNIS貿易会）。前回の第11回合同会議は2013年3月にタシケントで開催され、日本での開催は、カリモフ大統領訪日の際の2011年2月以来、約4年ぶりとなりました。

合同会議には、先方会長であるアジモフ第一副首相兼財務大臣をはじめ、同国政府関係者、エネルギー、鉱物資源、通信他の業界団体関係者計15名が参加し、ウズベキスタンの経済情勢、日本側に向けた様々な分野におけるプロジェクトの提案、今後の両国貿易・投資の拡大、協力関係発展に向けた期待が述べられました。

日本側からは、日本ウズベキスタン経済委員会会員企業の他、政府・政府関係機関、商社、メーカー、銀行など総勢148名が参加しました。

以下、第12回日本ウズベキスタン経済合同会議の概要についてご報告致します。

開会挨拶・報告

会議の冒頭、日本側議長である関山護・日本ウズベキスタン経済委員会会長／丸紅株式会社副会長は、本日の会議が総勢170名という多くの参加者を得て開催されたことは、両国の経済関係発展に、日本・ウズベキスタン双方が大きな関心を寄せている証拠だと話した。しかしながら、2013年の両国間貿易額は2.2億ドルとまだ規模が小さく、ウズベキスタンの高い成長率と、日本の技術力とイノベーション

を背景に海外の高い成長力を取り込み成長に繋げようとするアベノミクス政策を考慮すると、両国間の経済交流はもっと活性化されるべきだと語った。

また、2014年8月に当時の茂木経済産業大臣がウズベキスタンを訪問し、アジモフ第一副首相およびガニエフ対外経済関係・投資・貿易大臣との会談において、両国間の貿易投資の促進と電力分野の拡大について話し合いが持たれ、11月には電力セクタープロジェクトに対して、総額868億3,900万円の円借款に関する書簡の交換という成果に結びつくと紹介した。

そして、電力分野のみならず、自動車製造、情報・通信・放送技術などの分野においても日本企業がウズベキスタンにおいて活発に活動しており、両国が共同プロジェクトの実現に努力することにより、さらにビジネスの拡大が図られるものと期待していると話した。

続いてウズベキスタン側議長であるアジモフ第一副首相兼財務大臣は、2002年に両国間で戦略的パートナーシップが確立されており、長年にわたり実り多い協力関係が構築されていると話し、2011年2月のカリモフ大統領訪日時には、総額30億ドル規模の複数の共同プロジェクト文書が調印されたことを紹介した。

今回の訪日では、安倍晋三首相との会談が予定されており、安倍首相のウズベキスタン招聘に関するカリモフ大統領の親書を手渡す予定だと話した。

また、ウズベキスタン経済については、ここ10年の間、世界金融危機下においても毎年8%の経済成長を遂げており、国内債務はゼ

第12回日本ウズベキスタン経済合同会議プログラム

時間	プログラム
9:30-10:00	レジストレーション(2F スターホール)
10:00-10:05	開会挨拶・報告 関山護・日本ウズベキスタン経済委員会会長／丸紅(株)副会長
10:05-10:15	開会挨拶・報告 アジモフ・ウズベキスタン日本経済委員会会長／第一副首相兼財務大臣
10:15-10:20	来賓挨拶 山崎達雄・財務省財務官
10:20-10:25	来賓挨拶 赤石浩一・経済産業省審議官(通商政策局担当)
10:25-10:30	来賓挨拶 武藤頭・外務省欧州局参事官(大使)
10:30-10:40	<p>【プレゼンテーション】</p> クドラトフ・ウズインフォインベスト総裁(日本語でスピーチ) 「ウズベキスタン共和国の経済・投資ポテンシャル」
10:40-10:50	吉村宗一・日本貿易振興機構理事 「ウズベキスタンを中心とした中央アジアでのジェットロ事業と日本・ウズベキスタンの協力の可能性」
10:50-10:55	グリヤモフ・ウズベキスタン復興開発基金総裁 「ファイナンス協力拡大の展望」
10:55-11:10	<p>【文書署名】 ※文書署名終了後、アジモフ第一副首相退席</p> <p>【プレゼンテーション】</p>
11:10-11:20	バシドフ・国営株式会社ウズベクエネルギー総裁 「『ジュピター』プログラムの枠内でのエネルギー分野における協力の展望について」
11:20-11:25	ファイズラエフ・国営ホールディング会社ウズベクネフチェガス総裁 「石油ガス分野における投資プロジェクトの展望」
11:25-11:30	トウルムラトフ・国家地質・鉱物資源委員会議長代行 「鉱物資源分野における投資プロジェクトの展望」
11:30-11:35	ミルザマフムドフ・ウズキミヨサノアト(化学産業公社)副総裁 「化学工業分野における投資プロジェクトの展望」
11:35-11:40	イスマイロフ・ウズエルテフサノアト(電機産業協会)副総裁 「電機産業分野における投資プロジェクトの展望」
11:40-11:45	ミルザヒドフ・国家通信・情報化・通信技術委員会議長 「通信分野における投資プロジェクトの展望」
11:45-12:00	質疑応答、閉会挨拶 関山護・日本ウズベキスタン経済委員会会長／丸紅(株)副会長
12:00-13:30	日本ウズベキスタン経済委員会主催レセプション(於:如水会館2F・オリオンルーム)

ロ、対外債務はGDPの15%と安定していると話した。そして、現在日本との協力が進んでいる電力分野、バス・トラック製造分野、通信分野、肥料プラント建設などのプロジェクトを紹介した。

山崎達雄・財務省財務官は、ウズベキスタンを含めたアジアには膨大なインフラ・ニーズがあり、日本はアジア開発銀行と連携して、このニーズに応えていきたいと述べた。

続く赤石浩一・経済産業省審議官は、本合同会議が1994年より長期にわたり続けられ、今回第12回目の開催を迎えたことは、日本とウズベキスタンの間の経済関係の重要性を示すものであると述べ、2014年5月には麻生副総理が、同年8月には茂木経済産業大臣（当時）がビジネス・ミッションを率いてタシケントを訪問したことから、両国の経済関係は着実に進展していると述べた。

次に、武藤顕・外務省欧州局参事官（大使）は、2014年7月に「中央アジア+日本」対話の枠内で日・ウズベキスタン外相会談が行われ、二国間の関係強化のみならず地域の安定化についても有益な議論を行うことが出来たと話した。また、外務省として、日本企業のウズベキスタンにおける円滑な活動のための環境作りに向け、在ウズベキスタン日本大使館を通じた日本企業支援に引き続き努力していくと述べた。

ウズインフォインベストのクドラトフ総裁は、ウズベキスタンGDPに占める工業の割合が2000年の14.2%から、2014年は30%に増えた一方で、農業は2000年の30%から2014年は17%に減少しており、農業国から産業国家へと大きな構造改革が行われている証だと述べた。また、サービス業は2000年に37%であったのに対し、2014年はGDPの54%を占め、中小企業ビジネスは2000年に全体の31%であったのが、2014年には56%にまで達したと話した。ま

た、ナヴォイ市やアングレン市など国内に複数ある経済特区においては、自動車部品、通信機器、ポリマー製品などを製造する企業が順調に活動していると報告し、特区での税優遇などの利点をアピールした。そして、ウズベキスタンで現在計画中の380億ドル規模の870件の投資プロジェクト（食品、石油化学、機械製造、繊維産業他分野）への協力を呼びかけた。

日本貿易振興機構の吉村宗一理事は、ジェトロに寄せられる貿易・投資相談件数のうち、ウズベキスタンはCIS諸国の中でロシアに次ぐ第2位であり、具体的な案件の照会も寄せられていると話した。また、日本で毎年開催されるアジア最大の見本市「FOODEX」にてウズベキスタンの蜂蜜やドライフルーツ、綿実油などを出展し、日本企業から関心が寄せられたものの、具体的な商談に結び付いた例はまだなく、日本への輸出を阻害する要因の解決のため、ウズベキスタンの情報開示などに期待を表した。

ウズベキスタン復興開発基金のグリュモフ総裁は、ウズベキスタンにおける総額317億ドルの91件の投資プロジェクト（うち56件は実施済みまたは進行中、残り35件は準備段階）は、JICAやJBIC、世界銀行、アジア開発銀行の他、韓国、アメリカ、中国、スイス、スペインなど世界各国の金融機関より融資を受けて進んでいると話した。

ウズベクエネルギーのバシドフ総裁は、電力分野の近代化を目指す「ジュピター」プログラムの概要を報告し、現在、総額82億円規模の40件のプロジェクトが進行中だと述べた。また、三菱重工業製のガスタービンを導入したナヴォイ火力発電所のコンバインドサイクル発電設備建設など、これまで日本企業との間のプロジェクト成功例を紹介した。

ウズベクネフチェガスのファイズラエフ総裁は、2015～2019年における石油ガス分野発

展プログラムについて説明し、年間40万tのポリエチレンを生産するムバレク・ガス化学コンプレックス建設など日本企業の参入を希望する具体的プロジェクトの提案を行った。

続いて国家地質・鉱物資源委員会のトゥルムラトフ議長代行が、2013年よりJOGMECとの協力で実施されているナヴォイ州における砂岩型ウラン鉱区、チャッカロクラマレアメタル地域におけるレアメタルの共同探査の実例を紹介した。また、チタノマグネタイト鉱床開発、油頁岩鉱床開発、黒色頁岩型ウラン鉱床地質調査など複数のプロジェクトへの参加を呼びかけた。

ウズキミヨサノアト（化学産業公社）のミルザマフムドフ副総裁からは、今後日本に参入を希望するプロジェクト概要について説明があり、特に提案したい協力分野として、エネルギー効率の高い最新技術の提供および関連機器に関する日本の大手企業の入札への参加、大型投資案件における技術コンサルティング等をあげた。また、今後はウズベキスタンから東南アジア等への輸出を見込んだ製品の生産を計画していきたいと述べた。

ウズエルテフサノアト（電機産業協会）のイスマイロフ副総裁は、ウズベキスタンの人口増加と毎年約10%の家計所得の伸びを背景に、家電製品の需要が高まっているものの、生産が全く追いついていない状態だと話し、日本企業にエアコン、冷蔵庫、携帯電話、タブレット端末などの現地生産の参入を呼びかけた。

ミルザヒドフ・国家通信・情報化・通信技術委員会議長は、2014～2020年における国家情報通信システム開発計画の概要について説明し、通信インフラ、電子政府開発、経済関連分野のITシステムおよびアプリケーションのスケールアップ、専門ICT分野の教育システムの強化など125件のプロジェクトがあると述べ、日本企業の参加に期待を表した。

最後に、関山会長より閉会の辞が述べられた。実り多い情報交換と積極的な討議が行われたと話し、参加者に対して改めて感謝の言葉が述べられた。また、次回の第13回合同会議（ウズベキスタンで開催予定）までに、双方でプロジェクトの実現に向けて真剣に取り組み、成功例を見出していきたいと話した。

文書調印

合同会議の席上、経済委員会の議定書以外にも、複数の民間企業の文書調印が行われた。

以下、調印が行われた文書の一覧である。

第12回日本ウズベキスタン経済合同会議にて 調印された文書一覧 (当日調印順)

1. 第12回日本ウズベキスタン経済合同会議議定書

関山 護・日本ウズベキスタン経済委員会
長／丸紅株式会社副会長

アジモフ・ウズベキスタン日本経済委員会
会長／ウズベキスタン共和国第一副首相兼財務大臣

2. ナヴォイ肥料プラントに関する合意書

三菱重工業株式会社 エネルギー・環境ド
メイン営業総括部プラント営業部長

鈴木 宏悦

三菱商事株式会社プラントプロジェクト部長

鈴木 秀彦

ウズキミヨサノアトミルザマフムドフ副総裁

JSC ナヴォイアゾット ジャマロフ会長

3. ウズベキスタンにおける既設発電プラントの運用・ 維持管理における協業に関する覚書

三菱日立パワーシステムズ株式会社 サービス戦
略本部 執行役員 サービス戦略本部長

河相 健

国営株式会社ウズベクエネルギー パシドフ総裁

4. 通信情報技術国家委員会と日本電気株式会社との間のICT分野の情報共有に関する覚書

日本電気株式会社 海外ビジネスユニット
理事 池野 昌宏
国家通信・情報化・通信技術委員会
ミルザヒドフ議長

5. ウズインフォインベストと株式会社東横インとの「ウズベキスタン国内におけるホテル建設の可能性基礎調査」に関する協力の覚書

株式会社東横イン 執行役 鹿野 忠男
ウズインフォインベスト クドラトフ総裁

他、1件

日本側主催レセプション

会議終了儀には、会場別室にて、日本側主催レセプションが開催された。関山会長の乾杯挨拶のあと、トゥリャガノフ・対外経済関係・投資・貿易省次官より、会議を成功裏に終えることが出来たと感謝の辞が述べられた。

おわりに

この場をお借りし、今回の第12回日本ウズベキスタン経済合同会議開催に当たり、ご協力いただいた両国の関係者の方々へ事務局より感謝申し上げたい。

(構成：片岡 久美子)